

## JTEC の医療 DX 推進への取組

JTEC では、医療 DX の推進を重要なテーマの一つに掲げ、その実現に向けて取り組んでおります。

これまで、2023 年度の「ブータン画像診断支援 AI ソリューションの導入可能性調査」への取組や、2024 年度の日本遠隔医療学会<sup>1</sup>やその他医療団体・関係者の発掘等の取組を通じて、案件形成に必要な人脈や知見を積み重ねてまいりました。

これらの経験を基に、2025 年度はベトナムでの画像診断支援 AI ソリューションの実証実験に取り組んでまいりました。

ベトナムでは、1 万人当たりの医師数が日本の半分以下の状況で、特に地方の医師不足は深刻な状況から、患者が大都市に集中する傾向があります。そのため、X 線や CT 等の医療画像を診断する放射線科医は、増え続ける画像診断の需要への対応が求められています。

そこで、日本の東京大学発ベンチャーであるエルピクセル<sup>2</sup>とともに、「画像診断支援 AI」のベトナム展開を念頭に、ベトナム全国で医療クラウドサービスを展開している VNPT グループと連携して実証実験を行いました。

- 期間：2025 年 9 月～
- 場所：ハノイ郵政病院
- 役割：
  - エルピクセル：画像診断支援 AI「EIRL（エイル）」の提供・技術サポート
  - VNPT IT<sup>3</sup>：クラウド環境整備、PACS 連携、現地病院との調整
  - JTEC：プロジェクトマネジメント、現地ニーズ把握、ビジネスプラン策定支援

実証実験の結果、参加した放射線科医から「読影時間が大幅に短縮された」など使いやすさについて高い評価をいただくことができ、他病院からの利用ニーズも多数寄せられています。また、林総務大臣にご訪問<sup>4</sup>いただくなど日本政府からも注目をいただく取組となりました。現在は、実運用に向けたビジネス化議論を行うとともに、放射線科医のいない地方病院への展開の可能性を模索しております。

今後の医療 DX の取組では、これまでの取組をベースとして、ベトナムだけでなく同様の課題を抱える多くの開発途上国において案件形成の実現に取り組んで参ります。そして、医療現場の効率化、医療格差の解消等を実現することで、少しでも貢献できるよう今後とも努力してまいります。

---

1 日本遠隔医療学会：遠隔医療の臨床的、経済的、社会的側面からの知見を集約し検討を加えることで、科学的エビデンスを積み上げ、地域や在宅における健康増進や医療・介護支援に貢献することを目的とした一般社団法人。<https://telemed-telecare.jp/>

2 エルピクセル：AI(人工知能)と、ライフサイエンス(生命科学)の知見を融合することで、医療・ヘルスケアの分野に革新をもたらし、人々の健康に貢献することを目指した日本発最先端医療 AI 企業。<https://pixel.net/>

3 VNPT IT：ハノイ郵政病院を傘下に持つ VNPT 国営電話会社のグループ企業。34 省中 33 省で 600 医療機関に医療クラウドサービスを提供中。

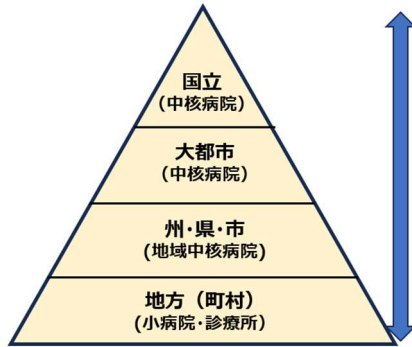
4 2026 年 1 月 15 日 林総務大臣がベトナムハノイ郵政病院での実証実験を視察。<https://jtec.or.jp/topics/697/>

## 画像診断支援AI導入による期待する効果

JTEC

・開発途上国各国では、医師数（特に放射線科医）は比較的少ない。  
・特に、地方の医師不足は深刻で、患者が大都市に集中。

➡ AI画像診断導入で支援



各国の医療システムの階層構造

1. 地方の医療品質格差の是正

2. 放射線科医不足への支援

3. 患者の待ち時間の減少

4. 地方の若手医師/放射線科医の育成

## <林総務大臣ご一行視察の様様>

